知症対応型共同生活介護「サービス評価」　総括表

法人名	株式会社 コスモスの里	代表者	津田　佳代恵
事業所名	グループホーム コスモスの里大江干	管理者	小坂　小百合

法人・事業所の特徴	家族や地域のつながりを大切に、ご利用者様の願いや希望に沿った、在宅生活が継続できるよう、取り組んでいます。同地域に７事業所を置き、一人暮らしの高齢者や認知症高齢者を支援しています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	０人	１人	２人	０人	２人	１人	０人	６人	０人	１２人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	全員で取り組み、確認することを継続する。	個人チェック集計と合計数の違いが、前年度のスタッフ数の違いであることを確認した。	スタッフの入れ替わりがあるが施設の良さが出ていることが良い。 スタッフの大変さも感謝している。	事業所の取り組みや評価の内容が推進委員の方に伝わりやすいような近況報告を行う。
B．事業所のしつらえ・環境	施設内の雰囲気を良くする努力をする。	感染流行時には、必ず換気している。 施設に入りやすい雰囲気作りをしている。	治療や対策に努力されていることがわかってよかった。	施設の雰囲気を知ってもらうよう見学など行事への参加を促してみる。
C．事業所と地域のかかわり	地域の方に頼られる施設であり続ける。	地域の方や民生委員の方と情報共有できた。	相談にもすぐ対応している。	地域の行事や活動を通して事業所との関係を深める。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の事に関わる。	なかなか地域の行事に利用者さんと参加できていない。	イベントではなくても、小学生やスタッフの子供たちの出入りができている。	利用者さんと一緒に地域の行事に参加する。
E．運営推進会議を活かした取組み	意見がたくさん出る会議を運営していく。	会議の検討事項や外部評価項目を議題としてあげ運営推進委員の方へ理解が得られるように工夫したが、事業所の取り組みについての理解が今一つイメージし難い。	外部評価ではよく考えず手をあげることもあるが、皆さんよく話し合っているのを見ると、コスモスを良くしたいという気持ちが伝わってくる。 初めての外部評価でなにをしていいか分からなかった。	外部評価についての取り組みを理解してもらう。
F．事業所の防災・災害対策	防災計画と訓練をしっかりと行う。	地域の防災訓練に参加した。	防災災害計画を知らなかった。 もっと発信してほしい。	地域の方や家族さんにも防災訓練に参加してもらい、今後の協力が深まるように働きかける。